

幼児期の教育を踏まえた小学校教育の在り方についての研究

－「10の姿共有シート」の在り方の調査および分析－

北川村立北川小学校 教諭 土居 さやか
高知県教育センター 主任指導主事 押川 朝子
チーフ 難波江 明美

高知県では、保育者と小学校教員とで子どもの育ちについて協議する際の補助シートとして、「10の姿共有シート」を示している。本研究は、高知県内の保育所・幼稚園等と小学校の「10の姿共有シート」の作成及び活用状況を調べ、傾向を分析し把握することで、よりよい連携・接続に向けた保育者と小学校教員の取組の在り方について検討することを目的としている。アンケート調査の結果、保育所・幼稚園等と小学校がシートを共有する対象を限定して始めることや、共同してシートを作成する機会をもつこと、目指す子どもの姿を絞って多様な場面で活用することが、シートのよりよい活用を実現する手立てとして有効ではないかと考えられた。

<キーワード> 10の姿共有シート、目指す子どもの姿、子どもの育ち、よりよい連携・接続

1 研究目的

(1) 接続期教育の重要性と課題

幼児教育の学びの成果が小学校と共有されるよう、平成29年3月に小学校学習指導要領や幼稚園教育要領等の改訂が行われた。国では保幼小中高一貫した教育を実現していくために、2030年の社会と子どもたちの未来を見据え、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（以下「10の姿」という）として、(1)健康な心と体 (2)自立心 (3)協同性 (4)道徳性・規範意識の芽生え (5)社会生活との関わり (6)思考力の芽生え (7)自然との関わり・生命尊重 (8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (9)言葉による伝え合い (10)豊かな感性と表現 という項目を設定している。また、保育所・幼稚園等と小学校において、互いの学びの特徴を踏まえつつ、子どもの発達と学びの連続性が確保されるよう取り組むことを重要視している。

このことについて、高知県では、「高知県保幼小接続期実践プラン」を策定し、保育所・幼稚園等と小学校との円滑な連携・接続のための実践プランを作成できるようにしている。この中で、保育所・幼稚園等で編成する「5歳児後半の年間指導計画」と小学校で編成する「スタートカリキュラム」を接続期カリキュラムとして示している。また、保育者と小学校教員とで子どもの育ちについて協議する際の補助シートとして「10の姿共有シート」を示し、「10の姿」を手掛かりに各園・所等や小学校の子どもの姿や、支援や指導のための手立てを考えていけるようにしている。

しかしながら、県内のほとんどの小学校区で、保幼小の円滑な接続に向けた接続期カリキュラムの作成が進んでいるものの、子どもの経験や育ちをつなぐ組織的・計画的な保幼小の連携や接続が十分に行われていない課題がある。

今後は、幼児期の学びを「10の姿」に視点を置いて可視化した「10の姿共有シート」等のツールを効果的に活用しながら、同じ地域の子どもを地域全体で育てるという視点をもって目指す子ども像を明確にし、幼児期の学びと小学校教育の学びを組織的につなげていくことが重要である。

(2) 課題解決の方向性

保育所・幼稚園等と小学校間では子どもの生活や教育の方法が異なっているため、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」からイメージする子どもの姿に違いが生じることがある。「10の姿共有シート」が、遊びを通した総合的な学びである幼児期の教育と、自覚的な学びへと発展していく小学校教育との円滑な接続を図るために、互いの理解を促進するシートであることが望まれる。

本研究では、高知県内の保育所・幼稚園等と小学校の「10の姿共有シート」の作成及び活用状況を調べ、傾向を分析し把握することで、よりよい連携・接続に向けた保育者と小学校教員の取組の在り方について検討することとする。

2 研究仮説

保育者と小学校教員が「10の姿」をもとに幼児期から児童期への発達の流れを理解し、子どもの姿を共有することによって、保育所・幼稚園等と小学校間で組織的な連携や接続を図っていくことができるであろう。

3 研究方法

幼児期の教育を踏まえた小学校教育の在り方について、次のとおりアンケートを実施し、その結果について分析・考察する。

(1) アンケートの目的

高知県教育委員会事務局幼保支援課が保幼小の連携・接続のために作成、活用を推奨している「10の姿共有シート」について、県内の小学校、保育所・幼稚園等における作成の状況と校内や連携先での活用の現状を明らかにする。

(2) アンケートの作成

「10の姿共有シート」の作成や活用の現状を把握するための方法として、アンケートを作成した。アンケートの項目は、表1に示した。

(3) アンケートの実施

ア 対象：各市町村立小学校保幼小連携担当、保育所等所属長

イ 調査時期：令和2年7月31日～8月31日

ウ 調査方法：小学校：電子メール送付

保育所等：「所長・園長研修ステージⅠ－Ⅱ」において実施

表1 幼児期の教育を踏まえた小学校教育の在り方についてのアンケート

| | |
|-----|--|
| 設問1 | 現在のお勤めの学校（園・所）での「10の姿共有シート」の使用についてお聞きします。あてはまるものに○をつけてください。 ①シートの作成や活用をしたことがある ②名称を聞いたことはあるが、シートの作成や活用をしたことはない ③名称を聞いたことも、シートの作成や活用をしたこともない |
| 設問2 | 「10の姿共有シート」を共有できる保育所・幼稚園等（小学校）がありますか。あてはまるものに○をつけてください。また、ある場合はその数も教えてください。 ①ある 《 》 園・所（校） ②ない |
| 設問3 | 「10の姿共有シート」の作成時期を教えてください。 《 》 月ごろ |
| 設問4 | 「10の姿共有シート」に記入していることに○をつけてください。（複数選択可） また、記入の際に留意していることも教えてください。 ①現在の子どもの姿 ②育ってほしい子どもの姿 ③小学校教員が大切にすること（保育者が大切にしてきたこと） ④その他 |
| 設問5 | 「10の姿共有シート」の活用方法に○をつけてください。（複数選択可） また、活用時期を教えてください。 |

- ①就学前の引継ぎの資料
- ②保幼小合同研修会等
- ③子ども同士の交流活動等
- ④授業または保育参観等に基づく協議
- ⑤スタートカリキュラムの改善（5歳児後半の年間指導計画の改善）
- ⑥その他

設問6 「10の姿共有シート」の使いやすさはどうですか。あてはまるものに○をつけ、そのように思った理由を記入してください。

- ①満足
- ②やや満足
- ③やや不満
- ④不満
- ⑤どちらでもない

設問7 「10の姿共有シート」を作成・活用していない理由に○をつけてください。（複数選択可）

- ①作成・活用の仕方が分からない
- ②必要性を感じていない
- ③行事等で忙しく時間がない
- ④シートを共有する保育所・幼稚園等（小学校）が近くにない
- ⑤他に共有する資料がある
- ⑥その他

設問8 「10の姿共有シート」を改訂するとすれば、どのように直せばよいと思いますか。

設問9 「10の姿共有シート」の使い方、よいアイデアがあれば教えてください。

設問10 「10の姿共有シート」の趣旨を踏まえて、今後活用してみようと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。また、その理由を教えてください。

- ①思う
- ②思わない

4 結果と考察

(1) 幼児期の教育を踏まえた小学校教育の在り方についてのアンケート結果の分析・考察

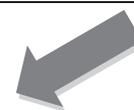
保育所・幼稚園等は29園・所、小学校は124校から、アンケートに対する回答を得て、結果の分析・考察を行った。

ア 設問1

「10の姿共有シート」の使用については、「シートを作成や活用をしたことがある」と回答した保育所・幼稚園等は全体の3割であり、小学校は全体の4割程であった。「作成や活用をしたことがある」と「名称を聞いたことはある」との回答を合わせると、保育所・幼稚園等、小学校ともにそれぞれ90%を超えており、認知度は高いと言える。

表2 「10の姿共有シート」の使用状況 設問項目1

| 保育所・幼稚園等 29園・所 | ある | ない |
|---------------------------------|-------|-------|
| ①シートの作成や活用をしたことがある | 31.0% | 69.0% |
| ②名称を聞いたことはあるが、シートの作成や活用をしたことはない | 62.1% | |
| ③名称を聞いたことも、シートの作成や活用をしたこともない | 6.9% | |



| | | |
|--------------------|-------|-------|
| 小学校 124校 | ある | ない |
| ①シートの作成や活用をしたことがある | 39.5% | 60.5% |

| | |
|---------------------------------|-------|
| ②名称を聞いたことはあるが、シートの作成や活用をしたことはない | 56.5% |
| ③名称を聞いたことも、シートの作成や活用をしたこともない | 4.0% |



イ 設問2

設問1で「シートの作成や活用をしたことがある」と回答した保育所・幼稚園等のうち88.9%は、シートを共有できる小学校が近くにあると回答している。そのうち1校と共有している園・所は62.5%で、2校が25.0%である。また、回答のあった全ての小学校は、シートを共有できる園・所が近くにあると回答している。そのうち、71.7%は一つの園・所のみと共有している。どちらも1校、1園・所の共有が最も多いことから、学校数や園・所数が少ないと共有しやすいと考える。

表3 保育所・幼稚園等のシートの共有状況

| | 割合 |
|----|-------|
| ある | 88.9% |
| ない | 11.1% |

表4 小学校のシートの共有状況

| | 割合 |
|----|------|
| ある | 100% |
| ない | 0.0% |

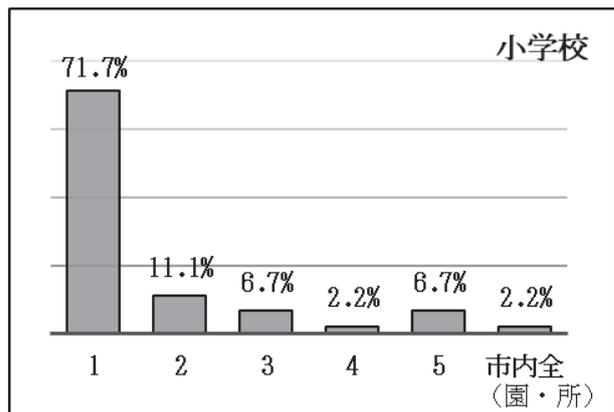
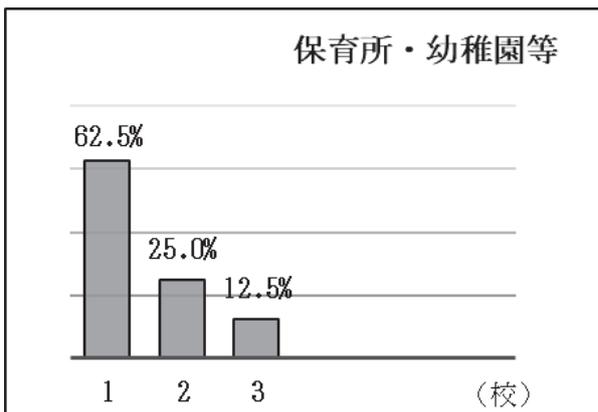


図1 「10の姿共有シート」を共有できる学校数 設問項目③

図2 「10の姿共有シート」を共有できる園・所数 設問項目③

ウ 設問3

「10の姿共有シート」の作成時期としては、保育所・幼稚園等は1～3月が45%であり、小学校も1～3月が57%であった。シートの作成時期は3学期が一番多いことが分かった。

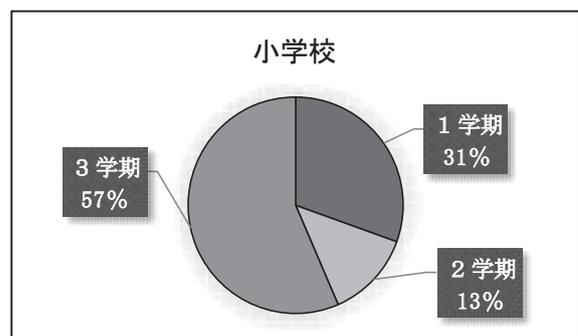
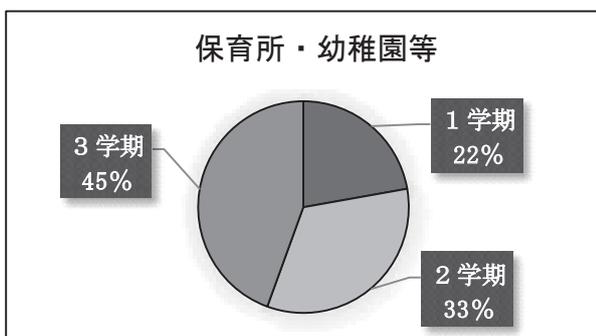


図3 「10の姿共有シート」の作成時期 設問項目③

エ 設問4

「10の姿共有シート」に記入している内容としては、回答した全ての保育所・幼稚園等が「現在の子どもの姿」を挙げていた。2番目は「保育者が大切にしてきたこと」で88.9%、3番目は「育てほしい子どもの姿」で66.7%であった。また、「その他」の記述はなかった。記入内容は「実践プラン」の様式例と同じであることが分かった。

小学校の回答では、最も多かったのは「育てほしい子どもの姿」で91.5%、2番目は「現在の子どもの姿」で85.1%、3番目は「小学校教員が大切にすること」で83.0%、4番目は「その他」で10.6%であった。「その他」の記述は、エピソード事例を記述して具体的な内容を示していたり、保護者が大切にしてきたことについて記述したりする学校があることも分かった。小学校も、保育所・幼稚園等と同じく「実践プラン」の様式例と同様の内容が多かった。

表5 「10の姿共有シート」に記入していることの割合 設問項目⁴ (複数選択可)

| 保育所・幼稚園等 | 割合 | 小学校 | 割合 |
|----------------|-------|----------------|-------|
| ①現在の子どもの姿 | 100% | ①現在の子どもの姿 | 85.1% |
| ②育てほしい子どもの姿 | 66.7% | ②育てほしい子どもの姿 | 91.5% |
| ③保育者が大切にしてきたこと | 88.9% | ③小学校教員が大切にすること | 83.0% |
| ④その他 | 0.0% | ④その他 | 10.6% |

オ 設問5

「10の姿共有シート」の活用方法と活用時期は、保育所・幼稚園等は「就学前の引継ぎの資料」「5歳児後半の年間指導計画」が多かった。そのうち、「就学前の引継ぎの資料」と回答した園・所では、作成時期として7園・所のうち6園・所が1～3月を挙げている。また、「5歳児後半の年間指導計画」でも5園・所のうち2園・所が1～3月を挙げている。

小学校の活用方法として多いのは、「就学前の引継ぎの資料」「スタートカリキュラムの改善」である。そのうち、「就学前の引継ぎの資料」と回答した学校では、作成時期として90.3%が1～3月を挙げている。また、「スタートカリキュラムの改善」でも71.9%が1～3月を挙げている。

このことから、「10の姿共有シート」の作成時期は、保育所・幼稚園等、小学校ともに3学期が多く、活用方法として最も多いのが「就学前の引継ぎの資料」であることが分かった。2番目に多い活用方法は、保育所・幼稚園等は「5歳児後半の年間指導計画の改善」であり、小学校は「スタートカリキュラムの改善」であることから、次年度に向けた取組の改善のための活用も多いことが分かった。

表6 保育所・幼稚園等の「10の姿共有シート」の活用方法と活用時期 設問項目⁵ (複数選択可)

| 活用方法 | 割合 | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | 1～3月 | 秋 |
|-------------------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|
| ①就学前の引継ぎの資料 | 87.5% | 0% | 0% | 0% | 85.7% | 14.3% |
| ②保幼小合同研修会 | 37.5% | 0% | 100% | 0% | 0% | 0% |
| ③子ども同士の交流活動 | 12.5% | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% |
| ④授業または保育参観等に基づく協議 | 25.0% | 0% | 50.0% | 50.0% | 0% | 0% |
| ⑤5歳児後半の年間指導計画の改善 | 62.5% | 20.0% | 40.0% | 0% | 40.0% | 0% |

表7 小学校の「10の姿共有シート」の活用方法と活用時期 設問項目5 (複数選択可)

| 活用方法 | 割合 | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | 1～3月 | 通年 | 未記入 |
|-------------------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| ①就学前の引継ぎの資料 | 61.2% | 3.2% | 3.2% | 3.2% | 90.3% | 0% | 11.8% |
| ②保幼小合同研修会 | 46.9% | 28.6% | 32.1% | 3.6% | 32.1% | 3.6% | 4.2% |
| ③子ども同士の交流活動 | 20.4% | 27.3% | 0% | 9.1% | 45.5% | 18.2% | 0% |
| ④授業または保育参観等に基づく協議 | 14.3% | 28.6% | 14.3% | 42.9% | 0% | 14.3% | 12.5% |
| ⑤スタートカリキュラムの改善 | 61.2% | 18.8% | 9.4% | 0% | 71.9% | 0% | 9.1% |

カ 設問6

「10の姿共有シート」の使いやすさについては、保育所・幼稚園等は「満足」の回答がなく、「やや満足」が50.0%、「やや不満」が12.5%であり、「不満」と回答した園・所はなかった。「どちらでもない」が37.5%で、全体的に肯定的回答の割合が高いことが分かった。

小学校は、「満足」が28.6%、「やや満足」が61.2%、「やや不満」が2.0%であり、「不満」と回答した学校はなかった。「どちらでもない」が8.2%で、保育所・幼稚園等と同じく、全体的に肯定的回答の割合が高いことが分かった。

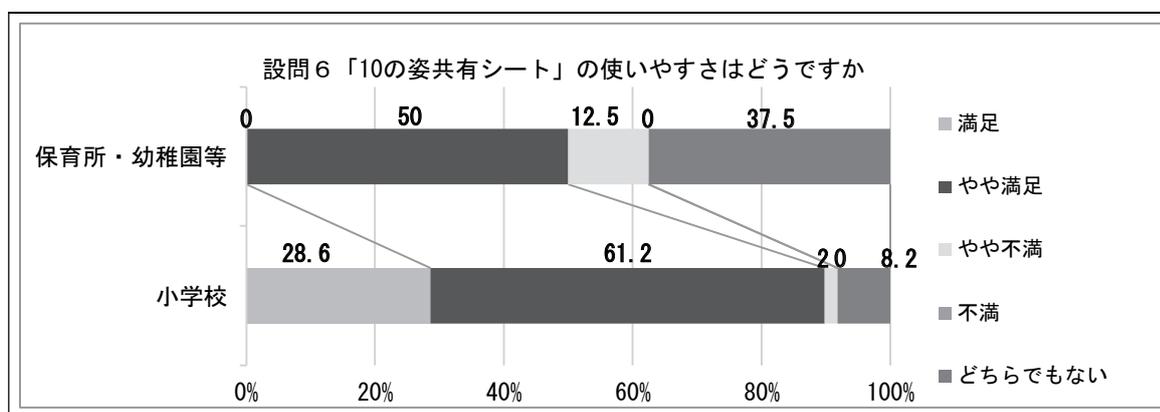


図4 「10の姿共有シート」の使いやすさの回答の比較 設問項目6

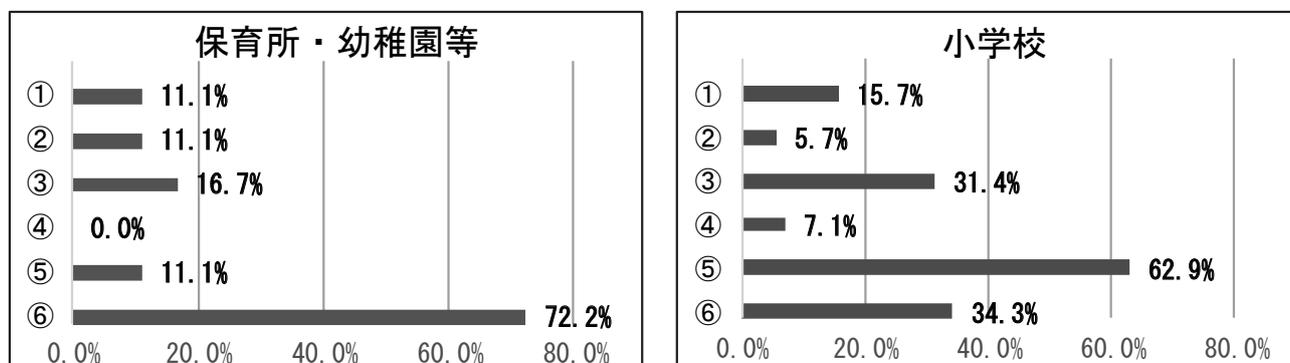
キ 設問7

設問1で「名称を聞いたことはあるが、シートの作成や活用をしたことはない」と回答した保育所・幼稚園等の理由としては、「行事等で忙しく時間がない」が16.7%で1番多かった。2番目は、「作成・活用の仕方が分からない」「必要性を感じていない」「他に共有する資料がある」で11.1%であった。また、「シートを共有できる小学校が近くにない」という回答はなかった。「その他」は72.2%で、記述内容としては、「『10の姿』は平均的な姿であるので、それよりも実際の色々な子どもの姿を共有したいから。」「5歳児後半の姿だけでなく、子どもの発達が違うことを共有したいから。」「市としては作成していると思うが、全体で共有できていない状況があるため、見たことがなく、自身も意識が薄いと思う。年長児担任でなければ必要性を感じていない職員は多いと思う。」等の記述が見られた。

「名称を聞いたことはあるが、シートの作成や活用をしたことはない」と回答した小学校の理由としては、最も多かったのは「他に共有する資料がある」で62.9%であった。2番目は「行事等で忙しく時間がない」で31.4%、3番目は「作成・活用の仕方が分からない」で15.7%、4番目は「シートを共有する保育所・幼稚園等が近くにない」で7.1%、5番目は「必要性を感じていない」で5.7%であった。「その他」は34.3%で、記述内容としては、「小学校、保育所・幼稚園ともに少人数であるため、シートを活用しなくても必要な情報は十分に交換し合え、現状でも引継ぎが十分に図れているから。」「保育所・幼稚園等と合同でシートの作成ができていない状

況や、学校全体で取り組もうという雰囲気になっていない状況があるため。」「市町村独自のシートを参考にしている。」「要録や引継ぎシートを活用している。」等の記述が見られた。

小学校では、シートを作成・活用していない最も多い理由が、「他に共有する資料がある」ということから、「10の姿共有シート」を引継ぎシートや要録等と同じく、個人を見取るものとして捉えているのではないかと推察される。



①作成・活用の仕方が分からない ②必要性を感じていない ③行事等で忙しく時間がない
④シートを共有する保育所・幼稚園等（小学校）が近くにない ⑤他に共有する資料がある ⑥その他

図5 共有シートを作成・活用していない理由の割合 設問項目7

ク 設問8

『10の姿共有シート』を改訂するとすれば、どのように直せばよいと思うか」という設問に対して、小学校では、『10の姿』が1枚で分かるようにしてほしい。』という意見が多かった。一方、保育所・幼稚園等は、特に意見はなかった。

ケ 設問9

「10の姿共有シート」の使い方について回答があったアイデアとしては、『10の姿』で目指す子どもの姿の優先順位やテーマでいくつか絞って、共有シートを作成したり、合同研修会で活用したりする。』「保育所・幼稚園等と小学校の縦のつながりと同じくらい、保育所・幼稚園等と小学校において、保育者・1年担任だけでなく全職員で子どもの姿を共有し、横のつながりも意識していく。」等の意見が見られた。

コ 設問10

『10の姿共有シート』の趣旨を踏まえて、今後活用してみようと思うか」という設問に対して、「思う」と回答した保育所・幼稚園等は全体で87.5%であった。理由としては、「子どもの姿が共有され、学校生活がスムーズに送れるならば活用したい。」「保育の内容に関わることを改めて保育者が意識できるため。」「園の向上のみならず、一人一人の職員の保育に向けた心構えが変わる気がするから。」等、保育者としての力量や指導力の向上を期待する記述が見られた。また、子どもの実態や発達だけでなく、お互いの教育や子どもの見方に違いがあることに戸惑いを感じていることがうかがえる記述も見られた。「10の姿共有シート」が幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図るために、保育者と小学校教員が互いを理解し合うことに役立つシートになることも望まれていることが分かった。

『10の姿共有シート』の趣旨を踏まえて、今後活用してみようと思うか」という設問に対して、「思う」と回答した小学校は全体で86.7%であった。理由としては、「入学した時に、スムーズに学校生活に馴染み、スタートカリキュラムから学習に移行できるから。」「『10の姿』の重点を共有し取り組むことによって、複数園からの新入生に対して、幼児期の学びと育ちを基礎として、活動や体験を考えたり支援・指導したりできるから。」「入学までに身に付いた力をつなげ、小1ギャップ等が少しでもなくなるように参考にしたいから。」等、シートの活用によって接続

期カリキュラムの充実につなげることを期待する記述が見られた。

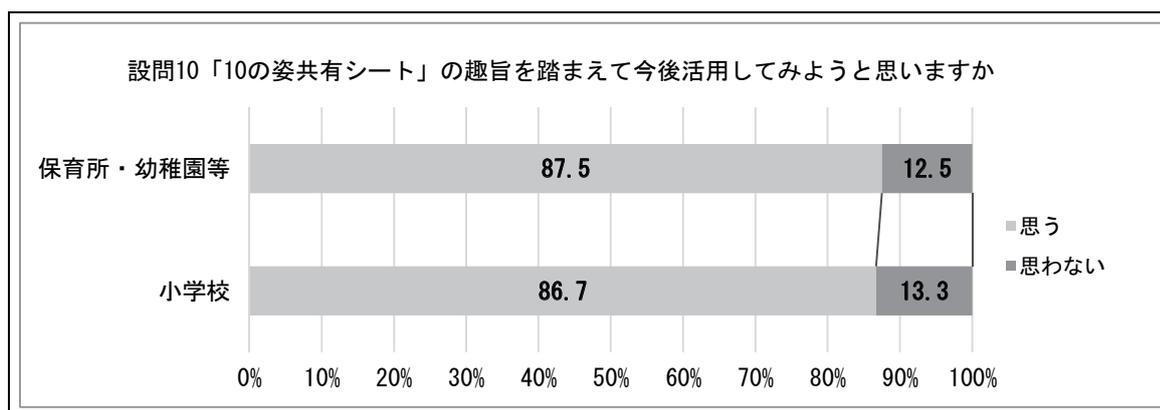


図6 「10の姿共有シート」を今後活用してみようと思う回答の比較 設問項目 10

(2) アンケート結果のまとめ

アンケートの分析・考察の結果、「10の姿共有シート」のよりよい活用を実現する手立てを以下の3点に整理した。

ア 保育所・幼稚園等と小学校がシートを共有する対象を限定して始めること

シートを作成・活用をしたことがある保育所・幼稚園等と小学校は、「10の姿共有シート」を共有できる所が近くにあると回答しており、うち半数以上が一つの小学校または保育所・幼稚園等と限定して交流していることが分かった。この結果から、共有する対象を限定した方が作成や活用に結び付きやすいと考えられる。1園・所と1校との交流は、園・所で「できていること」と小学校で「できるようになったこと」を共通の視点で確認しながら、保育による育ちを小学校でゼロに戻さない一貫性をもった教育を実現することにつながると考える。

イ 保育所・幼稚園等と小学校で共同してシートを作成する機会をもつこと

保育所・幼稚園等は、シートを作成している園・所の全てが「現在の子どもの姿」を記入していた。また、小学校で記入内容として最も多かったのが「育ってほしい子どもの姿」であった。作成の流れとしては、保育所・幼稚園等が「現在の子どもの姿」を記入し、小学校が「育ってほしい子どもの姿」を記入することになっていると思われる。一貫した指導や方向性の確認のためには、「育ってほしい子どもの姿」等について、保育者と小学校教員とが互いに意見を出し合いながらシートと一緒に作成することも、子どもの学びをつなぐだけでなく、教職員の交流や連携にもつながり、有効ではないかと考える。

ウ 目指す子どもの姿を絞って、多様な場面で活用すること

「実践プラン」の中に、「『10の姿』は個別に取り出されて指導されるものではない」とあり、「10の姿」は互いに関係し合いながら育っていくため、一つの姿についての話し合いは自然と他の姿にもつながっていくことが示されている。これからシートの作成・活用を始める保育所・幼稚園等や小学校は、1年間で共有する姿としては一つか二つを選択することで、目指す子どもの優先順位を決めることができると考える。

また、シートの作成・活用時期は3学期が多く、活用方法としては「就学前の引継ぎの資料」が最も多かったが、その他に、子ども同士の交流活動や授業参観等に基づく協議など、活用が可能な場面はさまざまあると考えられる。そのような場面では、子どもが身に付けた力や体験等を評価する視点を、シートの中から見いだすことができる。ただし、その際、保育所・幼稚園等が考える「10の姿」と小学校が考える「10の姿」の捉え方が一致していない項目があると思われるので、すり合わせが必要となる。

5 課題と今後の取組

研究における課題としては2点ある。

1点目は、アンケート調査の結果から得られた示唆について、実践や検証ができていないことである。所属校のある地域では、保育所から中学校までの一貫教育を目指しており、幼児期の教育と小学校・中学校の教育の円滑な接続を通して、15歳までに育てほしい子どもの姿の具体化を図り、子どもの自立や豊かな感性等を育むことを目指して取り組んでいる。地域の保育所と小学校としての結び付きは強いが、今後は、保育所と小学校で、共同してシートを作成する機会をもつことや、交流活動等の多様な場面でシートを活用することにも取り組み、その効果を検証していきたい。

2点目は、保幼小連携という縦のつながりの重要性を、小学校の全教員が意識して取り組むための体制づくりの方策については、明らかにできていないことである。先行研究で元木ら(2017)は、保幼小の円滑な接続において、学校全体で児童理解を行っていくことや校内で組織的な取組を進めていくことの重要性を述べている。また、山本ら(2019)も、保幼小接続は1年担任だけでなく学校として組織的に取り組み、共通理解を図っていく必要性を述べている。小学校へ入学した全ての子どもたちが、幼児期の遊びや生活を通じた育ちと学びを基礎としながら、安心感をもって新しい学校生活に円滑に移行し、主体的に自己を発揮したり、得意分野が生かされたりするような学校の組織的な取組の充実を図ることが重要である。このことについても、今後、研究を深めていきたい。

【参考・引用文献】

- 文部科学省(2017):小学校学習指導要領解説 総則編
文部科学省(2017):小学校学習指導要領解説 生活編
文部科学省(2017):幼稚園教育要領解説
内閣府・文部科学省・厚生労働省(2017):幼保連携型認定こども園教育・保育要領
厚生労働省(2017):保育所保育指針解説
国立教育政策研究所(2018):発達や学びをつなぐスタートカリキュラム～スタートカリキュラム導入・実践の手引き～
高知県教育委員会(2018):高知県保幼小接続期実践プラン
高知県教育委員会(2020):第3期高知県教育振興基本計画
田村学(2019):「深い学び」を実現するカリキュラム・マネジメント
津金美智子(2017):平成29年版新幼稚園教育要領ポイント総整理 幼稚園
無藤隆(2017):ここが変わった!3法令改訂(定)の要点とこれからの保育
久野弘幸(2017):平成29年版小学校 新学習指導要領ポイント総整理 生活
元木加奈子・難波江明美・岡林律子(2018):児童の保育所・幼稚園等の経験を生かした小学校教育の指導の在り方についての研究ー幼児教育の特性を生かした学びの連続性がある指導の工夫ー、平成29年度研究紀要、高知県教育センター、pp2-13
山崎理恵・難波江明美・岡林律子(2019):幼児期の特性を生かした接続期教育の在り方についての研究ー幼児期に培った「主体的な学びの姿」を小学校教育で発揮できるための学習環境の工夫ー、平成30年度研究紀要、高知県教育センター、pp2-17
山本なるみ・押川朝子・難波江明美(2020):幼児期の教育を踏まえた小学校教育の在り方についての研究ー幼児期の「協同性」の姿を、小学校教育の「協働性」につなげる支援の工夫ー、令和元年度研究紀要、高知県教育センター、pp2-14